



眼 大木幸治くん
(篠本3区)

ある日、いつものように

充実した 研修に満足

町の未来を担う青少年に、豊かな人格と広い国際感覚を培ってもらうために実施している青少年海外視察研修は、今年で13回目を数え、8月21日から26日の6日間、14名の研修生が参加しマレーシアとシンガポールを視察しました。

現地学生との交流や 異文化に触れる

青少年海外視察研修

この夏大

町の青少年を対象に今年の夏も各研修が行われました。中学生海外派遣、青少年海外視察研修、B & G体験海洋セミナーに参加した子ども達は、いろいろな経験・体験をしてひとまわりもふたまわりも大きくなって帰ってきました。その体験レポートを紹介します。

学校の朝のホームルームを受けていたら、光町海外視察研修の話が持ち上がり、担任の先生に「いつてみてはどうだ？」と言われた。自分は、最近同じ事の毎日で何か刺激がほしく、行くことに決めた。

出発の日、飛行機に乗り、離陸、渡航、そしてクアラ



千葉県シンガポール事務所で武田所長と参加者で記念撮影

ルンポール空港到着。思わず「ウォー異国の地だ！」と一人騒いでしまった。早速レストランへ。思い出される味は、「薄かったな...」の一言。日本の料理がすごく愛しくなった。ホテルの自分たちの泊まる部屋につき、一番はじめに思ったのは、夜景がすごくきれいなことだった。

2日目は、世界三大熱帯雨林の一つ、マレーシア森林研究所に行った。山道がすごくきつかったけど、日本の森林とは違う雰囲気、開放感があり全然疲れなかった。疲れると言ったら唯一食事かもしれない。出される物みんないちが中途半端で

慣れるまで大変だった。マラッカでは、市内視察をしていて目に入ってくる建物がとてもおもしろい。こんな風な家を自分でデザインして建ててみたいと思った。

4日目は、ガイドのヤップさんとサンカ君のお別れ。国際特急列車を待っている、ヤップさんが中国の弦楽器「二胡」で、別れの曲を弾いてくれた。目に涙が溜まってきたので、その場所から離れてサンカ君と話してたら寂しさで、また涙が溜まってきた。最後、列車に乗って動き出したときには涙がキラリどころじゃなく、ボロボロ出てしまった。列車に揺られてシンガ

ポールへ。この日の夕食は現地学生との交流会を兼ねていたため、英単語のおさらいをしようかと思いましたが覚えていたことがあまりにも乏しく、逆に諦めてしまつた。案の定、みんなが集まり話し始めると、何となく、英語はわかるけど本当は理解したわけではないの

で答えが出せず、通訳をしてもらってばかりいた。交流会は、極度の疲労とストレスに襲われた。

最終日、シンガポールも今日で最後。この日は、「今日で終わりだよ。」と何回も呟っていた。自分なりにこの研修はたくさん収穫があったので満足しています。研修で学んだことをこれからの自分



が生きていくための何かの役に立てていきたいと思えます。

ありがとうございました。
(研修レポートより抜粋)

思い出に残る 誕生日プレゼント



加瀬 崇くん
(日吉小6年)

1日目は、沖縄の見学をしました。外に出るとすごく暑かったです。ほとくの班は中学2年生の人が班長で、すぐに友達もできました。

2日目は、マリンスポーツの体験で、ぼくはバナナボートが一番好きでした。

3日目の自然教室は、台風10号の影響で、大雨

と大風でした。

4日目の午前中は海洋公園の見学をしました。午後からは風邪で見学中のぼくを、チーフたちが電気自動車に乗せてくれました。

最後の日、那覇空港で九州の友達と固い握手をして別れました。飛行機に乗り「今日誕生日です。」と言うと、キャプテンたちが、サイン入りカードとぬいぐるみをプレゼントしてくれました。

小学生最後の素敵な夏休みになりました。

